

リアルタイム被害予測ウェブサイト「cmap.dev (シーマップ)」の新機能について

2020年6月5日

MS&ADインシュアランスグループのあいおいニッセイ同和損害保険株式会社（代表取締役社長：金杉恭三、以下 あいおいニッセイ同和損保）、国立大学法人横浜国立大学（学長：長谷部 勇一、以下 横浜国立大学）および Vesta 株式会社（ヴェスタ、代表取締役：岡崎 豪、以下 Vesta）は、リアルタイム被害予測ウェブサイト「cmap.dev (シーマップ)」(以下 cmap) に、被災建物予測棟数を被災前からリアルタイムで公開する世界初の機能などを6月5日より追加します。

1. 背景

気象・災害に関する産学共同研究の成果として2019年6月に一般公開した cmap (<https://cmap.dev>) は、「自然災害発生時の被災建物予測棟数をリアルタイムで公開する世界初のウェブサイト」として、多くの方々にご利用いただいています。

公開後も、防災・減災活動に尽力されている地方公共団体、研究機関、企業等との情報交換を重ねる中で、被災直後の建物被害予測に関して、更に早いタイミングでの予測を望む声などが多く寄せられ、新機能を検討し、今般提供を開始することとなりました。

2. 新機能の概要

- ◆災害接近時のみ表示される新機能は、右記デモサイトでご確認いただけます



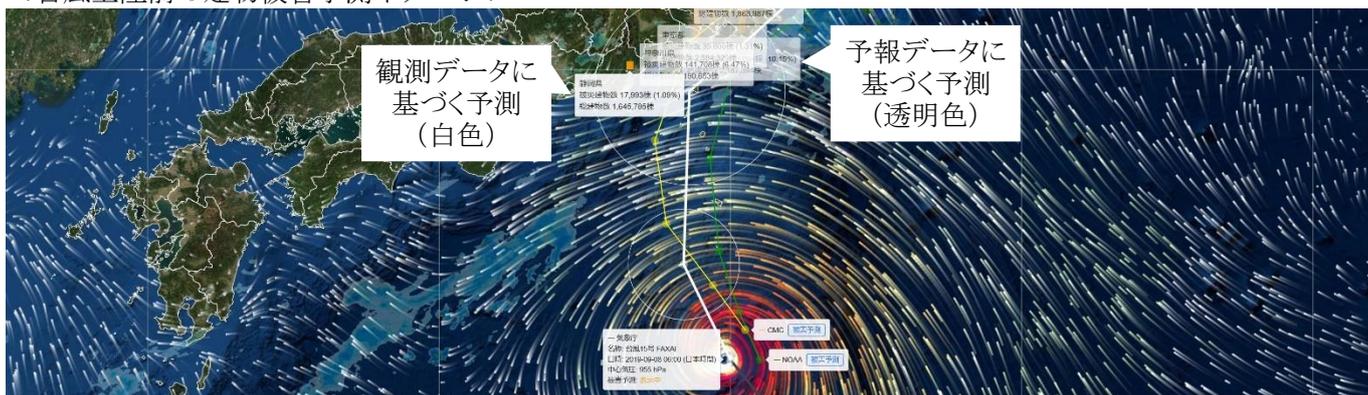
cmap デモサイト (30 秒間自動再生)

<https://cmap.dev/demo/index.html>

(1) 台風上陸前から建物被害を予測（風災の危険度をイメージ頂くためのシミュレーション機能）

- ・気象庁・NOAA(米国海洋大気庁)・CMC(カナダ気象センター)の予報データで上陸前から3種類予測(風災)
- ・各地の予報データを常時7日先まで取込み、閲覧時以降7日間の中で最大の予測結果を表示(透明色)
- ・各地の観測データに基づき建物被害を計算、閲覧時より過去7日間で最大の予測結果を表示(白色)

<台風上陸前の建物被害予測イメージ>



(2) 警戒レベル4・5相当地域の表示（水災の危険度をイメージ頂くためのマッピング機能）

・気象庁が発表する警戒レベル4・5※相当地域を表示（数秒間明滅後に薄紫色で着色、1分毎に情報更新）

※警戒レベル4「自ら避難の判断を」、警戒レベル5「命を守るための最善の行動を」（出典：気象庁）

<警戒レベル4・5相当地域の表示イメージ>

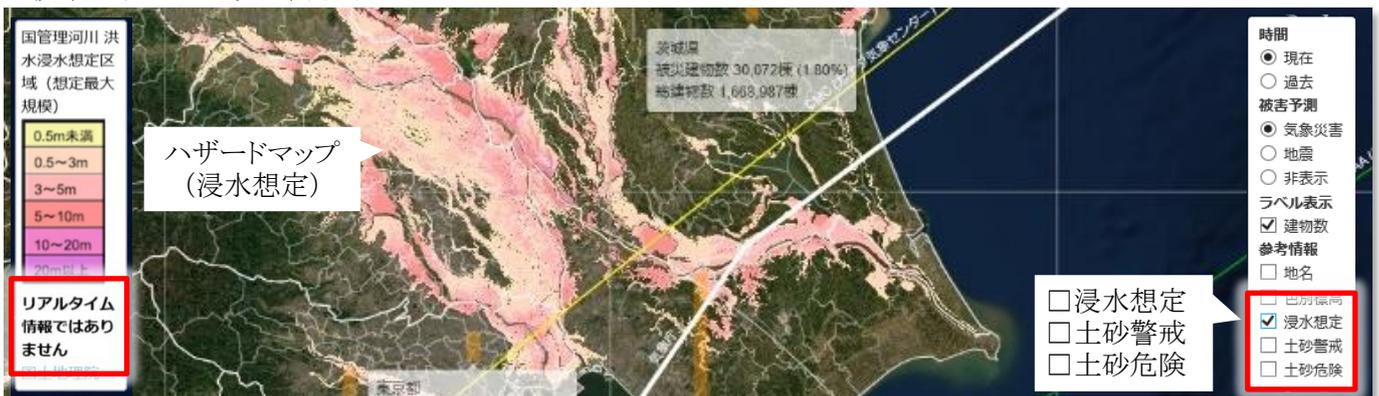


(3) 洪水ハザードマップ表示機能（平時：危険区域の把握、有事：警戒レベル4・5相当地域との照合など）

・国土地理院が公開しているハザードマップを、利用者が自ら選択して表示する機能

・ハザードマップの種類は、浸水想定・土砂警戒・土砂危険の3種類

<洪水ハザードマップ表示イメージ>



(ご参考) 各種機能の実装状況

	平時	有事	
		被災前	被災直後
風災	過去の主要災害シミュレーション ・風水災:11件 ・地震:3件	台風上陸前の建物被害予測 New	建物被害予測 ・風水災:毎時0分更新 ・地震:10分以内更新
水災		警戒レベル4・5相当地域の表示 New	
洪水ハザードマップ表示機能 …右メニュー「浸水想定」を選択 New			
地震		× (地震予知)	

3. 今後の展開について

以上の新機能は、迅速なお客さま対応を追求してきたあいおいニッセイ同和損保による課題分析、横浜国立大学の持つ高度な計算科学技術から開発した台風のシミュレーション機能、エーオングループジャパン株式会社が開発した建物被害予測システムを基礎としながら、Vesta の建物被害予測に関する豊富な知識と高度なスキルにより実現したものです。今後も、有事の防災情報をプッシュ通知でお知らせするアプリ版の開発などを予定しています。本ウェブサイトが地域のみなさまの防災・減災に貢献することを目指し、更なる開発をすすめていきます。

以上

◆今回の新機能追加による URL の変更はありません。引き続き **cmap** をご活用ください。



cmap (リアルタイム被害予測)

<https://cmap.dev> (従来通り)